

平成 28 年度 熊野高等学校 専攻科 評議員会

平成 29 年 3 月 22 日 (水) 10:40~11:30

校長室

学校評議員出席者

松元 由美 (南和歌山医療センター 看護部長)
内海 みよ子 (和歌山県立医科大学保健看護学部学科長教授)
岩野 清美 (和歌山大学教育学部社会科教育教室准教授)
上羽 寛 (熊高教育協議会会長)
塩路 敦則 (熊野高校 PTA 前副会長)

学校側出席者

夏目 康弘 (校長) 鈴木 孝夫 (教頭) 入澤 和彦 (教頭)
宮崎 信子 (看護科長) 平芝 誠 (教務部長)
横出 恵 (看護科教諭) 山本 直美 (看護科教諭)

1. 開会

資料確認

2. 学校長挨拶

3月1日に卒業式を終えたが、専攻科2年生が受験した看護師国家試験の合格発表は3月27日に行われる。全員が合格し、内定いただいている病院に看護師として送り出したいと思う。

本日参観いただいた授業についてのご意見をいただきたい。また、昨年度に立ち上げた評議会であるが、開催時期についてご意見をいただきたい。

来年度より、本校はコミュニティスクールとして現在の熊高教育協議会を学校運営委員会として立ち上げていくが、専攻科評議員は現行のまま継続をお願いしたい。

3. 自己紹介

4. 看護科の現状報告等について (宮崎)

・専攻科課程日程表

例年通りの行事を行ったが、新たなものとして熊野高校としては3年ぶり、専攻科としては初めての宣誓式を9月に行った (以前は高校2年生で実施していた)。専攻科に進み改めて、みんなの前で決意を表明することで生徒にとっても良いものであり、大変厳かな良い式であった。

・授業評価

専攻科1年に対して授業評価を実施した。結果、成果と課題については資料参照。授業内容につい

て概ね良い評価を得ている。今後も授業形態、内容の工夫、改善を継続し、また、生徒のモチベーションを向上させるような授業の工夫も必要である。看護師国家試験の合格率の継続に向けて、工夫が必要であり、教科全体で取り組んでいきたい。

専攻科2年生には臨地実習終了後にアンケートを実施した。実習前の指導で事前のレポートが負担であるという生徒が多い。結果については資料参照。

・進路先

過去5年間の卒業生進路先については、県内では実習病院である南和歌山医療センター、紀南病院、白浜はまゆう病院の就職が多い。県外への就職者は合同説明会などに自ら参加し、情報を集め就職先を決定している。就職先については資料参照。本年度は早い時期から就職活動を行い、ほぼ9月には内定をいただいている状態であった。

・放送大学による大学編入に関する説明をうけてのアンケート

アンケート結果から、大学編入に関してきちんと理解できていない生徒が意外と多いことがわかった。早い段階から、自分たちの将来設計ができるよう指導していく必要がある。結果については資料参照。

5. 学校評価について（宮崎）

平成28年度学校評価シートの説明（資料参照）。

6. 協議

・平成28年度教育課程研究指定事業についての本年度の取り組み報告について

岩野：指定事業研究協議会での発表後の意見や質問を教えて欲しい。

宮崎：ピア評価はきちんと思っていることを評価できているのか？という質問があった。定量評価で実際に厳しい評価をつけている生徒もおり、つけられた生徒は嫌そうな顔をする場面もあった。意見を言いやすい関係作りができていると捉えている。

上羽：お互いの意見を取り入れることが難しい。自分の足りないところを取り入れていくことが必要であり、学び合いの教育はとても大切であると思う。看護師の言葉ひとつひとつで患者の安心感が違うということを実際に目にした。

塩路：良いところに視点をあてることが大切。他者の良いところを見つけ、そこから会話を広げていく。

上羽：良いところを見て、悪いところはお互いにカバーしあっていくことが大切。

・本日の授業参観について

内海：学生が主体的に取り組んでいることはわかったが、本日の授業がどの段階の授業かわかりにくかった。研究に向けて楽しみながら頑張っていた。

研究指定事業の発表では、TBLについての資料が欲しかった。プロセスがわかれば、発表内容がわかりやすかったと思う。

自分たちで学ぶ姿勢が大切。このような取り組みで結果をだし、発表していただけるのは嬉しい。

塩路：10時間でテーマを決め、研究計画書を作成するところまで行うのか。

宮崎：授業時間内のみでは難しく、例年時間外の活動が多い。

塩路：興味を持って取り組むことが大事。

松元：ピア評価の中で、褒めあうことはできているということはわかったが、「有用な、あるいは突っ込んだ質問をする」という項目があまり伸びていなかったようであるがその点についての対策があれば聞かせて欲しい。

宮崎：画一的な答えしか出ない傾向にあるため、その点が伸びなかったと考える。いろんな視点から見た意見を出して行ってほしいが、この点について教員は、主体性に影響するかもしれないと悩み、声かけを遠慮し、生徒の行動を見ていくこととした。導く声かけは大切であると考えるが、生徒の主体性を育むことと教員の声かけのバランスが難しい。

塩路：教員の引き出し方によるのではないか。

考えるプロセスが大切であるため、否定をしないことでいろんな意見を出して行ってほしい。

横出：普段の授業の中でも、主体的に学習に取り組める場合とそうでない場合とがある。好き嫌いがあるのかもしれないが、苦手意識を取り払い、いろんなことに主体的に取り組めるようになって行って欲しい。そのための後押しができる声かけ、教育をしていきたい。

山本：ヒントがあれば広げていける。取っ掛かりを自分たちで見つけられる関わりをしていきたい。

平芝：専攻科では物理分野の授業を担当している。問題に積極的に取り組んでいるクラスである。周囲とのコミュニケーションをとりながらできていた。

・学校評価シートについて

塩路：先日行われた沐浴テストについて、合格者が少なかったと聞いているがその理由を教えてください。

宮崎：沐浴での合格者は2名であった。評価項目を生徒に配布したが、項目の内容はできていても、実技は一連の流れであり、項目には挙がっていないような基本的な内容などができていない生徒が多かった。例えば、寝衣交換の際に、紐が立て結びになっているなどの基本的なことができていなかった。

塩路：テストを行う前に何回授業を行ったのか。

宮崎：沐浴については看護科3年生で行っているものであり、テスト前に授業として何回も行っているわけではない。

塩路：ある程度、生徒のできていない部分を生徒のわかるようなポイントで教えてやって欲しい。生徒は合格したいと思っているし、できれば合格するようにして欲しい。一生懸命行って合格しないと、生徒もがっかりしてしまう。事前の練習でもグループでしか練習ができないと聞いたが、どうしてか。

宮崎：グループメンバー全員がそろわないといけないという指導はしておらず、どのように行うかは各グループで決めた。グループで責任を持って欲しいという思いがある。

塩路：グループの中にはできる子もいれば、何回も練習をしないと不安な子もいるので、意欲のある生徒には自由にやらせてやってほしい。

内海：県立医科大学保健学部では、実技練習を自由に行わせている。自己学習の時間を大切に

いる。自分の技術をビデオ撮影し、ビデオを見て自分の足りないことを自分で気づくようにしている。

岩野：「チームに貢献できる」ためには、その前提に自分はできるという見通しが立っていなければならない。自分はできるという見通しが立てられて初めてチームに貢献できる。

塩路：見本のビデオなど見比べてみることも必要かもしれない。

7. 閉会

校長より挨拶

来年度の評議員会の開催時期について確認。同様に3月に実施することで決定。